

「あの日の思い出と感謝」

深谷市立上柴中学校 2年3組 金澤歩美

2020年4月。まだこの世界が未知のウイルスに包まれてすぐの頃。今も、そしてきっとこれからも忘れることのないだろう思い出がある。

それは、身内以外の人との接触がほぼゼロだった時。ゴミ袋に一言、”ゴミ収集ありがとうございます”とメッセージを付けたことだ。届くかもわからない想いだった。それでも、あのような状況下でもなお仕事をこなしてくれることが心の底からありがたくて、それをどうにか伝えたかったのだ。

ゴミ収集車が来たタイミングを狙ってゴミ出しに行く。会話は出来ないから、ゴミ袋を置くと収集員さんに軽く会釈だけしてその場を離れた。黙々と作業を進める男性の手が私の出したゴミ袋を持った後、ふと止まった。メッセージを読んでもくれたのだろうか。その後、周りを見渡した男性は家の前から様子をうかがっていた私を見つけると、笑顔を浮かべて深々と一礼をしてくれた。

マスク越しでもわかる笑顔だった。私の想いが届いたとはっきり分かり、嬉しいばかりだった。その笑顔と一礼で心がふっと軽くなり、温かくなるのを感じることができた。

あの日以降、時々会釈をすることはあったものの、会話をしたことはほんの一度もなかった。そして、最近では姿を見かけることさえなくなってしまっている。それでも、あの男性の笑顔は今でも忘れず、脳裏に焼き付いて離れない。

そんな男性のゴミ収集という仕事は、税金によって行われているらしい。ゴミ収集だけではない。私たちの身の回りの多くは、税金によって支えられているというのだ。

これ以外にも税金は多くの仕事、サービスに関与しているため、ここであげられるのはほんの一部。例えば、思い出でもあるゴミ収集の仕事。また、医療サービスも税金によって支えられているという。昔から病気がちで救急車にもお世話になったことのある私。もし税金が無く、救急サービスが今と違った状態だったり、はたまた存在すらしていなかったらと思うとぞっとした。

これだけではない。もし税金が存在しなかったとしたら、安全を取り締まる警察は存在しない。私達の学びの場である教育現場も、今とは全く違う形になってしまう可能性も大いにある。

あの日の男性の笑顔から、私はとても大事なことを学ぶことができた。私達の日常は税金によって支えられているということ。そして必要不可欠であるということ。

これから成長していく私は、今まで以上に多くの税に触れていくことになる。サービスに支えられていくことは勿論のこと、消費税以外にも納税する機会も増えていく。そんな時、あの日の思い出がまたよみがえってくるだろう。未来の私も、税に感謝しながら前向きに関わっていきたい。